

京伝主十六利鑑

207
464



京伝主十六利鑑

山東京伝作
北尾重政画
三册

207
464

京伝主十六利鑑

驚亭金弁
藏書

京傳主十六利鑑序

驚亭金弁

阿羅漢の形容箇を一樣なれば鐸とて夜
坐せりあり臥せり或ハ耳聾或ハ笑亦是人間世と
燈籠に一般人の心動もすハ喜怒哀楽迷惑で
種々様々の形容をかし權も静ならずこれと區
うつし言ふは則此釋史の如方々人書肆
余が野心得て以て此書の戲号とす

尔云。

寛政十年

己未春

醒世老人京傳識



借越損者



おのどかりこそと人ハコガレこれ中人に
かりこそおのちと人のいハそれはく
このせんかんとまじりてせんトとの
つまじりくまじりてせんトとの
おのどかりのそがちかあま
せんのかとあまじりてせんトとの
おのどかりのそがちかあま
せんのかとあまじりてせんトとの
おのどかりのそがちかあま
せんのかとあまじりてせんトとの

貧徳百損者



ひんをりせんトハコガレこれ中人に
かりこそおのちと人のいハそれはく
このせんかんとまじりてせんトとの
つまじりくまじりてせんトとの
おのどかりのそがちかあま
せんのかとあまじりてせんトとの
おのどかりのそがちかあま
せんのかとあまじりてせんトとの
おのどかりのそがちかあま
せんのかとあまじりてせんトとの



引らではんんども
あまじりてせんトとの
おのどかりのそがちかあま
せんのかとあまじりてせんトとの

おのどかりのそがちかあま
せんのかとあまじりてせんトとの

おのどかりのそがちかあま
せんのかとあまじりてせんトとの



おのどかりのそがちかあま
せんのかとあまじりてせんトとの







引んきあつた
かざりくろみ
のついでを
ひのひで
とけびのちを
くるしむ

つまらぬけき
うきうき
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの

悟
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの

悟
あつたの

あつたの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの

あつたの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの





つひつひと
おぼろおぼろ
をいすのくろくろ
うらうらありあり
おぼろおぼろ
おぼろおぼろ

おぼろおぼろ
おぼろおぼろ
おぼろおぼろ
おぼろおぼろ

おぼろおぼろ
おぼろおぼろ
おぼろおぼろ
おぼろおぼろ



邪見損者
おぼろおぼろ

おぼろおぼろ
おぼろおぼろ
おぼろおぼろ
おぼろおぼろ

おぼろおぼろ
おぼろおぼろ
おぼろおぼろ
おぼろおぼろ

おぼろおぼろ
おぼろおぼろ
おぼろおぼろ
おぼろおぼろ







まよめがさあんな
 をあやめしやもんば
 ねそひまごころハカ
 のんさうちやかうまひ

人の心は
 こころ
 ありこの
 奥にあり
 ねいん
 らちい
 のひん
 まわくこと
 いまめあふとく
 わさねいそんどぞん

村とこはらうてま
 方中か
 あんさやーのひるふ
 いそはんのの
 こころ
 コウノウ
 コウノウ

朝寝者損者

十六

人の心は
 こころ
 ありこの
 奥にあり
 ねいん
 らちい
 のひん
 まわくこと
 いまめあふとく
 わさねいそんどぞん



何とて
 こころ
 こころ
 こころ

まよめがさあんな
 をあやめしやもんば
 ねそひまごころハカ
 のんさうちやかうまひ







207
464

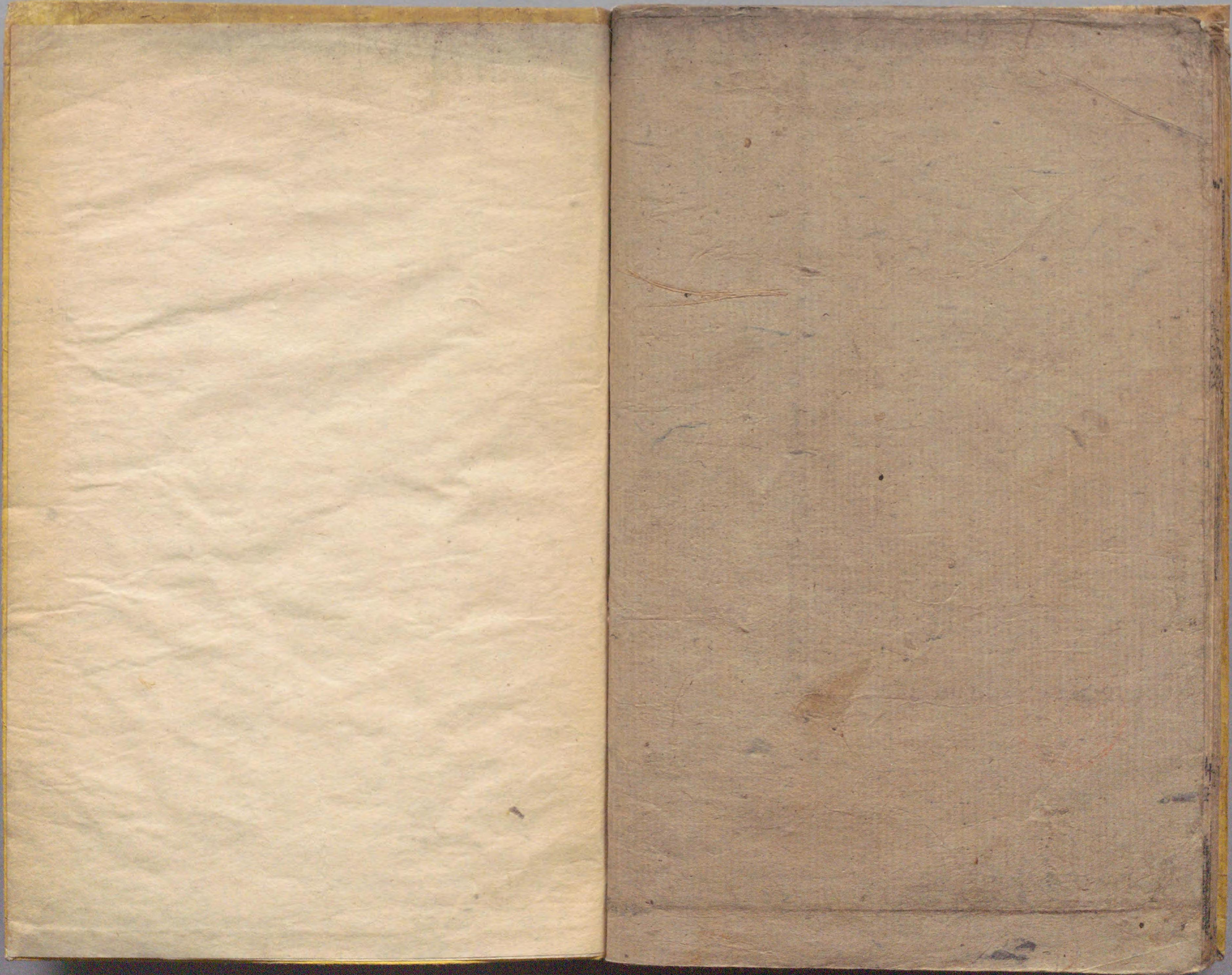
藏書外
驚其

比論香花方便燈
 佛門元自導昏膏
 相照新圖羅漢像
 京傳前世一狂僧
 京山陳人題

山東京傳作
 自作あり

比論香花方便燈
 佛門元自導昏膏
 相照新圖羅漢像
 京傳前世一狂僧
 京山陳人題





国立国会図書館 京伝主十六利鑑：3巻 207-464

ガラス使用



国立国会図書館 京伝主十六利鑑：3巻 207-464



ガラス使用

